

公民館を拠点としたESD

社会教育の拠点「公民館」。地域に密着した、地域課題を解決することをテーマにESDを推進しています。

岡輝公民館

防災を通じた多文化共生

岡輝地区は、在住外国人が多く、災害時には、日本人と外国人が共に助け合うことが求められています。

このため、「命」をキーワードに、防災活動を通して国籍を超えた地域力の構築を目指して「多国籍防災会議」を開催しています。10か国をこえる国籍の住人による話し合いから、多くの外国人は地震の体験が無く、また、日本人も災害に対する意識が低いことが分かり、一緒に防災学習や体験活動に取り組み、在住外国人を含めた地域のネットワークづくりを進めています。



妹尾公民館

地域資源の掘り起こしから地域交流へ

妹尾・箕島地区は、新興住宅が多く地域の歴史を知らない住民の割合が増えてきています。このことから、歴史的にも大切な「水」をキーワードに、地域に住む人たちが地域をより知る活動として「井戸マップ」を作成しています。井戸マップ作成プロジェクトのメンバーが、地域の井戸を調べ、知識を深めることで、昔の人が暮らしの中でいかに水を大切にしてきたかを語り継ぐことにつながっています。

また、郷土料理「ふなめし」も、伝統食であることを知らない人が増え、「ふなめし祭り」が多世代のつながる場としても定着してきています。



北公民館

地域の伝統文化の次世代への継承

毎月1回発行の北公民館広報紙に、特集記事『こうぼくESD通信』を連載しています。公民館が立地する岡北地区の各町内を訪ね、大切にしていることや継続して取り組んでいる行事や活動、次世代に受け継ぎたいことなどを取材して、地区全体に発信しています。住民自らが、地元の文化・伝統・祭りなどの行事、生活環境、地域の間人関係、次世代の教育などに関心を持ち、課題を共有し、地域の将来を考えることができるよう、取り組んでいます。



岡山市内全ての公民館で、地域のさまざまな人が集い、いろいろな活動が行われています。ずっと地域で暮らしている方、これからの地域の担い手、在住の外国人の方など、いろいろな人たちが一緒になって、未来の社会や地域について考え、共に学びあい、実践しながら、ESDに取り組んでいます！



岡山市立中央公民館 重森しおりさん

岡西公民館

地域への愛着心を育み、支えあう福祉の未来を描く

親子対象にまちなかホタルの観察や用水路の魚調査を行い、若い世代が地域の良さや魅力を再発見し、地域への愛着心を育てる取組を行っています。一方で少子高齢化が進む中、地域や家庭で安心して住み続けることのできるまちを目指して、介護保険でカバーできない日常の些細なことを支えあう仕組みづくりを進めています。「地域 みんなでつながり隊～私たちのできること～」の受講生を中心に実際に組織化します。将来は小中学生の参画も期待し、活動の可能性を上げていきたいと考えます。みんなでアイデアを出し合いながら、新たなつながりを創造し地域福祉の未来を考えます。



西大寺公民館

主催講座からまちづくりへ

退職後の生きがいづくりと仲間づくりを目的として、ボランティア養成講座「うどん学校」を実施。半年間で本格的なうどんの打ち方や出汁の取り方を学び、毎月1回お手製うどんを提供するうどん版カフェ「うどん亭つどい」を開設し、地域の方との交流を深めています。また、公民館内の活動だけにとどまらず、地域の施設などへ出掛けて行く出前ボランティア活動にも力を入れています。

かつて西大寺観音院の門前町として賑わった商店街も、現在ではシャッター通りとなり活気がなくなっています。将来的には「うどん亭つどい」が、商店街の空き店舗を利用したコミュニティビジネスへと発展すれば、街の活性化・まちづくりへつながるのでは…と夢は膨らみます。



図書館におけるESD活動の推進 岡山市立図書館の取組

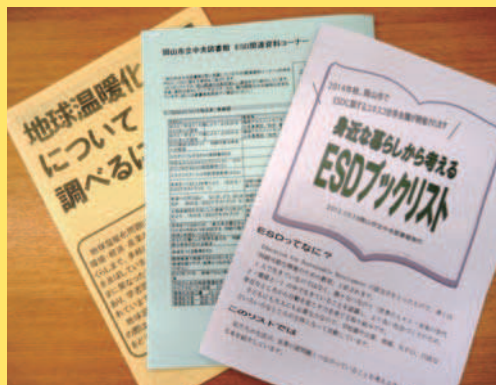
持続可能な社会をつかっていく上で、市民一人ひとりの「知る」「考える」「行動する」を情報拠点として支えるのが図書館の役割です。

図書館では、「ESD関連資料コーナー」を設け、ESDに役立つ資料を展示し、これらを紹介するブックリストも作成することにより、ESD活動を支援するとともに、ESDへの理解が広がるよう努めています。

また、公民館でのESD活動を支援するために、地域について知る本や地域課題に役立つ本などを公民館に提供しています。

そのほか、体験と同時に本でも知識を得ることができる図書館のメリットを活かし、「緑のカーテン大作戦」など楽しみながら自然や環境への理解を深めることができる子ども向けの行事も行っています。

(岡山中央図書館)



ESDブックリスト



関連資料コーナー

地域のつながりによるESD

地域には学びの種がたくさんあります。
学校・地域・行政などが、連携してESDに取り組んでいます。

藤田学区 「農」がつなぐ人づくり・地域づくり

岡山市立第一藤田小学校

藤田地域の農作物について食べ物マップ作りやフィールドワークを通して、持続可能な地域づくりを考えています。



岡山市立第二藤田小学校

学区の玉ねぎ農家の協力による収穫体験。藤田の豊かな実りに気づき、地域学習につなげています。



岡山市立第三藤田小学校

地域の方と共に「20年後の藤田の米作り」について考える「プロジェクト八十八」を実施しています。「藤田に農業は必要か」をテーマに子どもたちが様々なことに取り組みます。



岡山県立興陽高等学校

環境に優しい稲作にアヒル農法を取り入れ、ファミリー稲作体験会を実施しています。また菜の花エコプロジェクト活動にも取り組んでいます。藤田学区の小・中学校でのESDの講師役になることもあり、学校間・学校と地域の連携の橋渡しの役割も担っています。

藤田公民館と地域の学校

藤田学区では、公民館を会場に小学校から高等学校までの各学校における1年間のESDの取組の発表会を開催しています。司会は中学生。地域の方々、お世話になった方々にわかりやすく説明するのは難しいけれど、子ども達にとっては貴重な経験です。こうした取組が地域にESDを根付かせることにつながります。



岡山市立藤田中学校

公民館主催事業の「わくわく親子ふれあい理科教室」は藤田中学校の生徒と教員が指導員を務めます。自然や生き物たちの観察を通して地域のあたたかい人間関係を育むことができ、農だけでなく、ESDを推進する上でつながりを生み出しています。



中学校区で共通の子ども像を設定し、ESDを推進しています。小中高と地域・公民館、大学まで連携して、フィールドワークをします。連絡調整は大変ですが、地域の方の話を知ると藤田の素晴らしさを改めて感じます。子どもたちは20年後の藤田を考えながら学習に取り組んでいます。

岡山市立第一藤田小学校 松本和子先生

京山地区では、「子どもも大人も共に学び合い、社会的課題に協働して取り組む地域をつくる」などの地域目標を設定し、「一人の百歩より百人の一步」を合い言葉に、学校や公民館や地域コミュニティが一体となった地域ぐるみのESDを推進しています。



京山地区ESD推進協議会 会長 池田満之さん

高島学区 水といきものくらし

高島公民館・高島旭電エコミュージアムを語る会

高島公民館では、岡山淡水魚研究会と共に「田んぼの生き物調査～アユモドキ繁殖状況調査」を行っています。調査は地域内の保護田で行い、地域の小学校の児童も多く参加しています。また、この稀少生物が地域で生き続けることができる環境を守っていくために、水と自然、自分たちの生活と農業などについて、子どもから大人までが学び、考えるための講座やワークショップなどを開催するとともに、川や生物について楽しく学ぶ「川ガキ道場」や「ホタル観察会」などにも取り組んでいます。



岡山市立高島小学校

天然記念物であるアユモドキの人工繁殖を通して、生命の尊さや環境問題を学習しています。公民館職員などによる出前授業を実施するなど、地域内連携が図れていることも特色です。



京山学区 共生をめざした多彩な広がり

京山公民館・岡山市京山地区ESD推進協議会

京山公民館を拠点に、2003年度からESD活動を行っています。地域の小・中学校の児童、生徒が公民館に集まり、地域の川や空気の汚れを調べ、地域の人に結果を報告する活動から始まりました。学校での環境教育や地域に多く在住する外国人との共生などをテーマに、今では、様々な催しを開催し、多彩な広がりを見せていて、2007年に京山中学校の生徒が市長に提案した“緑と水の道構想”は2011年度に具現化されました。(2014年度供用開始)



岡山市立京山中学校

環境・平和・国際・人権等を柱に、個人やグループでテーマを設定し、探究活動に取り組んでいます。その成果や提案を総合文化発表会や京山公民館等で地域に積極的に情報発信することで、学校全体で「思いやり・

夢・志」を育て合うESD活動を推進しています。地域の方と共に歩む中学校区です。



岡山市立津島小学校

安全・環境・福祉の3グループに分かれ、マイプロジェクトの成果と課題について地域の方に聞いていただき、意見をいただきました。地域の方と一緒に地域のために何ができるかを考え、「未来」について話し合うことができました。



岡山市立伊島小学校

京山ソーラーグリーンパークで、再生可能エネルギーと環境との関わりを学びました。地域の学習資源を開発し、活かす活動を進めています。地域には魅力的な資源があふれています。

ESDの推進拠点としてのユネスコスクール

ユネスコスクールを拠点としてESDを推進しています。

2013年現在、岡山市内では公立小・中学校43校がユネスコスクールに加盟（申請中・準備中を含む）し、それぞれの学校や地域の特色を活かしたESDを展開しています。2014年度末までに50校の加盟を目指しています。



岡山市立竹枝小学校

学校と地域が協働して取り組む「竹枝・ふるさと再生プロジェクト」では、米や野菜を地域の人たちと共に栽培し、収穫したもので行う「フェスティバル」や、地域の歴史や現状について調べたことをまとめ「持続可能なふるさと」について地域の人たちに発表する「ふるさとづくり発表会」を行っています。環境学習や食農体験活動に重点をおいた学校独自の活動を継続・発展させていくことで「持続可能なふるさとづくり」に積極的に関わろうとする児童を育成しています。



岡山市立足守中学校

地域の様々な課題を整理し、現地調査を行い、地域住民と話し合い、日本・世界の同様な地域を調べることで、解決方法を探っていく取組を行っています。このプロジェクトを通し、生徒一人ひとりが将来の足守地域の担い手であるという自覚を持ち、伝統を守り受け継ぎ、地域を担っていく力を育てます。3年生での「地域学習発表会」では、地域に対して提言を行います。生徒の説得力のあるプレゼンテーションによって、提言が採用されたものもあります。有識者からの講評と振り返りをもとに、課題の焦点を深く追求し、継続的に調査・活動ができるようにしています。



岡山市立開成小学校

「地域の文化を学ぶプロジェクト」「地域の自然と環境を学ぶプロジェクト」「持続可能な世界のためのプロジェクト」を通して、地域や社会に主体的に参加しようとする子どもの育成を目指しています。

環境にやさしい農業体験（米作り等）の活動を通して、食の大切さや、安全で健康的な生き方について考えています。中でも、地域の人たちの協力を得て行ったアヒル農法の体験活動では、地域の人たちとふれあい、たくさんの感謝の気持ちを持って活動することができました。



岡山市立小串小学校

小串の海でアマモが減ってきている中、地域をはじめ多くの人々がアマモ再生活動に取り組んでいます。小串小も平成19年度からアマモ再生活動に取り組み、海の環境を守り豊かな海を取り戻す活動をすすめています。その中で自然との持続可能な共生のあり方に気づき、今自分たちができることは何かを考え活動しています。また、つぼ網や小串の特産物である海苔をすく活動も、子ども達にとっては地域の伝統文化に触れる貴重な体験です。



岡山市立三勲小学校

低学年の生活科や中・高学年の総合的な学習の時間を中心にふるさと岡山や三勲学区の“人・自然・文化”を題材とした地域との触れ合いを大切にする「ふるさと学習」に継続的に取り組んでいます。まとめにあたる6年生では、歴史ある岡山後楽園の能舞台上で、日本の伝統文化である能の発表会を開催しています。「本物」だけがもつ圧倒的な迫力を体験し、伝統文化を継承する“人”の真摯な生き方を学ぶことができます。



岡山市立御南小学校

3年生では昔のくらしの様子や人々の苦勞や工夫を知る活動を入口として、学区の歴史を調べる学習をしています。秋には地域のボランティアの方々に田舟に乗せていただき、用水路を巡る「舟ゆうさん」を行いました。

地域の人や歴史・文化との関わりを大切にし、地域社会の一員として持続可能で住み良い社会づくりに主体的に関わる児童の育成を目指しています。

岡山市立福田小学校・福田中学校

中学生と小学生のグループで、地域の史跡を探訪するスタンプラリーを実施したり、地域クリーン作戦に参加したりすることで、地域のよさを認識し次世代へつなごうとする意欲を高めたり態度を養ったりしています。また、中学校では、国際理解をテーマとした講演会の開催や、広島・沖縄訪問を通しての世界平和の実現に向けて何ができるか、何をすべきかなどを探求しています。こうした取組は、秋に実施する「福田学区 秋の音楽祭」において作品展示をし、地域の方々をはじめ多くの方に知ってもらえるようにしています。



岡山市立福渡小学校

私たちが住む町・福渡のよさや特徴を見つめ直すことで、福渡の豊かな自然や歴史に興味をもち、町への愛着を深めることができるような活動をしています。

福渡がこれからどのような町になってほしいかを考え、地域の一員として地域と一緒に町づくりに携わっていく活動も行っています。

3年生の町探検では、福渡のこれからの話し合い、「未来マップ」を作成し、よりよい町づくりに向けての意見発信を行います。公民館に傘を置くなど、町づくりに取り入れられた意見もあり、よりよい町づくりへの意欲も高まっています。



岡山市立福渡小学校 中山佳昭先生

豊かな自然、文化、歴史をもつふるさと「福渡」をより深く知ってほしいと願っています。地域の方々のご支援で子どもたちは福渡のよさや課題に気づき始めています。子どもたちが福渡の町を愛し、守り、継承していく担い手となればうれしいです。

